

ま え が き

社会の変化に伴って子どもの育ちの状況が大きく変化してきました。子どもはけんかを食べて大きくなると言われてきました。「けんかを食べて」という言い方には、食べ物だけではなく、友達を含めた他者とのかかわりや交わりの大切さが込められているのです。子どもが人間として成長し、発達していくのは、「人間」という文字が示しているように、まさしく「人の間」においてであります。しかし、現代という社会は、子どもの生育環境から他者とのかかわりや交わりの場や機会を奪ってきています。幼稚園以外の育ちの場である地域や家庭において、その傾向は加速度的に進んできているといえます。そうだとすれば、幼稚園での保育では、今まで以上に子どものかかわりや交わりを大切にしていくなければなりません。

本園では、こういった現状認識に立ち、「友だちとかかわり合いながら創る生活」をテーマにし、研究を続けてきました。昨年度は、「トラブルを通して」というサブテーマをもうけて、ややもすれば否定的に捉えられるトラブルを再検討し、それを子どもの発達・成長にとって大切なものとして位置づけてきました。本年度は、昨年度の成果を土台に「さまざまな場を通して」というサブテーマを設定し、保育のさまざまな活動場面で子どもたちがどのように友だちとかかわりながら自分たちの生活を生みだしていくのかを追究するとともに、実践を積み重ねてきました。この間の私たちの保育と研究成果の一端を公開いたします。まだまだ、確信をもつまでにはいたっておりませんが、みなさん方からご意見やご指摘を頂きながら、私たちが見えていなかった部分、不十分な内容を補い、修正・発展させたいと考えております。そして、研究で学んだ成果を今後の保育に生かしていきたいと思っております。どうか忌憚のないご意見、ご指摘を頂きますようお願いいたします。なお、本年度は秋にも引き続き教育研究会を予定しております。今回の研究会での論議の成果がどのようにその後の保育に展開されているのかを見ていただき、さらなるご意見やご指摘を頂ける事を期待しております。秋の研究会では、議論のための十分な時間もっておりますので、こちらの方へも是非ご参加ください。

最後になりましたが、本研究のためにご指導下さいました先生方、ご来会の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

平成13年6月

金沢大学教育学部附属幼稚園長 諸 岡 康 哉